

# アイテムしごと探検隊

●実施日：2008年4月1日(火)  
社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)



社団法人日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)

東京都文京区のJFAハウス内に位置するJリーグ事務局。チェアマン室や約40人のスタッフからなるフロアを中心に企画・運営が行われるほか、公式グッズを扱う「Jリーグエンタープライズ」、公式写真を撮影・保管する「Jリーグフォト」などで関連事業も展開している。同じビルには「日本サッカーミュージアム」もあり、全国のサッカーファンが日々訪れている。

## 小倉 隆史(おくら・たかふみ)氏 プロフィール

1992年 名古屋グランパスエイト  
1993年 エクセルシオール(オランダ)~94年 帰国  
1996年 2月アトランタ五輪代表合宿で右ひざを痛め、オランダでのリハビリ  
2000年 完全復帰。その後4つのクラブでプレー  
2006年 現役を引退。

技術、破壊力バツグンのストライカーで「レフティ・モンスター」と呼ばれていた



## 緊張のなか、しごと探検隊スタート

4月1日、「アイテムしごと探検隊」に選ばれた小学生19名が、Jリーグ事務局を訪ねた。Jリーグを支えている様々な仕事を「探検」するためだ。隊員たちの前にあらわれた鬼武チェアマンは、想像していたよりもずっと迫力がある。「Jリーグにも、君たちの意見をどんどん聞かせてほしい」と鬼武チェアマンに言われて、緊張していた隊員たちの表情も、少し和らいできた。

## 「試合に800枚！」 Jリーグの歴史を写すカメラマン



隊員たちの顔の大きさほどもあるレンズのついたカメラを抱えて登場したのは、Jリーグのオフィシャルカメラマンである伊藤さん。隊員たちひとりひとりも、大きなカメラに触らせてもらった。伊藤さんの仕事は、試合前のイベントから、練習風景、ロッカールーム、臨場感あふれる試合の間、集合写真まで、全体を記録すること。試合で撮る写真は約800枚だが、最終的に記録として保存するのは、およそ200枚だとか。こうした記録があるからこそ、Jリーグの歴史が残っていくのだ。

## よりスピード感あふれる試合に。 ボールを進化させる仕事

競技用ボールのメーカー、(株)モルテンの平野さんは、サッカーボールの秘密を教えてくださいました。隊員たち小学生が練習で使うボールとJリーグの公式球は、一見同じに見えるが、全く違うのだそう。Jリーグ公式球には、表面や縫い方に秘密があって、より早く、より遠くにボールが飛ぶように工夫されているのだという。二つのボールに触れた隊員たちも、違いを実感したようだ。「今の公式球は9代目。サッカーの試合をより面白くするために、ボールもどんどん進化しています。」と平野さんが説明してくれた。



# 選手や監督だけじゃない！ Jリーグをささげる仕事いろいろ

そして、今回のナビゲーターをつとめてくれる、JリーグOB選手の小倉隆史さんが登場。「サッカースタジアムで試合を見たことのある人手をあげて。」小倉さんからの問いかけに、隊員たちの手が次々とあがる。「よかったあ。ほっとしたよ」と微笑んだ小倉さんにつられて、隊員たちもにっこり。



## Jリーグを応援する企業をアピール。 スタジアムの看板って、大切なんだ

最初は、スタジアムの看板を作っている(株)AFAの藤間さんからおはなし。企業名や商品名が書かれている看板には、置き看板や、回転式、最近では、浮き上がって見えるものもあるそう。雨が降っても、風がふいても、看板が倒れたり飛んだりせずに、試合を無事終わらせることがなによりも大切なのだという。「看板の企業はどうやって選ぶんですか」「看板は全部でどれくらいあるんですか」「隊員たちからも、積極的に質問が出はじめた。



## 日本全国でわずか830人の精鋭たち。 サッカー選手という仕事

そして、いよいよ、隊員あこがれの小倉さんへの質問タイム。プロサッカー選手になるためには、どうしたらいいのだろう。「まず、サッカーを好きになること。」と小倉さん。「好きになって、うまくなりたいと思ったら、練習するよね。でも、コーチに言われたことを、ただ練習するだけじゃだめだ。自分で考えて工夫しよう。それだけで、全然違ってくるぞ。」だけど、と小倉さんは続ける。「プロは厳しいよ。日本でたった830人しかない仕事だからね。」だからこそ、ピッチに立つ選手たちは輝いて見えて、みんなのあこがれの的なのかもしれない。

## 事務局やミュージアムも見学

隊員たちは、Jリーグ事務局にある校長室のようなチェアマン室、約40人ものスタッフが働くフロアも見学した。「Jリーグエンタープライズ」ではTシャツやキーホルダーなどを、「Jリーグフォト」ではデジタル写真やボジフィルムを見ることができた。最後に訪れたのは日本サッカーミュージアム。古いユニフォームやボールから、つい最近の試合の様子までが展示されている。



## 公平に、楽しく、安全に。 試合を守る審判員という仕事

次は、審判員を務めるJリーグの岡田さん。ホイッスル、イエローカードとレッドカードなど、審判員の小道具をずらりと並べて見せてくれた。隊員たちも興味津々。ところで、なぜ、審判員は必要なのだろう。まず、両チームが公平であること。そして、選手みんなが楽しくプレーできること。さらに、選手たちがケガをしないよう安全にプレーできること。この3つが試合中ずっと守られるように、審判員は、ボールの動きにあわせて走り続けなければならない。試合で走る距離は、なんと約12キロ！そのため、審判員たちは、毎日トレーニングを積んでいるそう。



隊員たちは、小倉さんの説明を熱心に聞きながら、日本サッカーの歴史を満喫していた。お別れに、小倉さんたちが握手をして、Jリーグ事務局をあとにした隊員たち。華やかなサッカーの試合も、いろいろな仕事に支えられていることを体感したに違いない。



●チェアマン室での隊員たち

スタッフからみんなへ  
大好きなサッカーは、選手や監督といった表舞台に立つ人だけでなく、いろいろな人や仕事に支えられていたことを感じ取ってくれたものと思います。たったひとつの「好きなこと」だって、まわりにはたくさんのお仕事がある。だから、「好き」を自分の仕事に結びつける道もきっとたくさんあるはず。隊員たちがいつか大人になったときに、今日の体験をもとに思い出してくれれば、と願っています。

## 隊員の感想コーナー

- 最初はとてもしんちょうしたけど、小倉さんやしん判の人、カメラマンの人などに会えて、とてもうれしかった。(古林くん)
- サッカーの表は大体知っていたけれど、うらまではしなかったから、今回のことは体験でしることができてよかった。(古鑑くん)
- ボールを作る人やしんばんなどの人がいて試合ができ、その試合を伝えるカメラマンなどがいて、私たちがサッカーを楽しめるんだと思った。(阿部さん)
- 小倉さんみたいな選手やかんとくさん以外にもいろんな人が協力してやっている事が分かって良かった。(菊地さん)
- 今日はいろいろなお話が聞けてうれしくて、ますますサッカーが好きになりました。(金子さん)
- サッカーのことはだいたい知っているとってたけど、知らないことばかりでびっくりした。(陶山さん)
- 隊員紹介 (あいうえお順)  
阿部さん(6年生) 阿部くん(6年生) 宇野くん(6年生) 大森くん(5年生)  
岡本くん(6年生) 菊地さん(6年生) 金子さん(5年生) 古林くん(5年生)  
陶山さん(5年生) 高橋さん(6年生) 田中さん(5年生) 田中くん(5年生)  
時田さん(6年生) 早船くん(5年生) 日置くん(5年生) 古鑑くん(6年生)  
松本さん(5年生) 安永くん(6年生) 渡部くん(5年生)